

Changing risk factors for postpartum depression in mothers admitted to a perinatal center

酒見, 好弘

<https://hdl.handle.net/2324/7329555>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :

権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International



氏 名： 酒見 好弘

論文名： Changing risk factors for postpartum depression in mothers admitted to a perinatal center

(周産期センターに入院した母親における産後うつ病の危険因子の変化)

区 分： 乙

論 文 内 容 の 要 旨

背景 エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) は、一般的に産後うつ病のスクリーニングに使用されている。我々は、EPDS score の変化に関連する臨床因子について検討した。

方法 2018年から2019年の間に小倉医療センターで単胎を出産した母親 (n=1, 287) について検討した。EPDS 日本語版は、出産後1週目 (初期) と4週目 (後期) に実施した。日本ではEPDS score 9点以上の場合は産後うつ病のリスクが高いとされている。

結果 全体の母親のEPDSの平均のスコアは産後1週間から4週間にかけて改善した (EPDS scoreは 5.03 ± 0.12 から 3.79 ± 0.10 と低下)。初産婦、帝王切開症例および低いアプガースコアが産褥初期の産後うつ病リスク因子であった。それらのうち初産婦は4週間後も産後うつ病のリスク因子として残った (aOR2.02、95%CI 1.37-2.97)。母体年齢が35歳以上の場合にはEPDS scoreの悪化 (aOR 1.88、95%CI 1.01-3.51) と関連していたが、帝王切開症例では改善していた (aOR0.38、95%CI 0.21-0.70)。新生児が新生児集中治療室 (NICU) に入院した母親のうち、初産婦、帝王切開症例、および新生児呼吸サポートが初期の産後うつ病のリスクであり、乳児の奇形は後期のリスクであった (aOR3.35、95%CI 1.31-8.56)。NICUへの入院期間が4週間以上の乳児の母親では、乳児の奇形はEPDS scoreの悪化 (aOR6.61、95%CI 1.11-39.3) と関連していたが、乳児が呼吸サポート受けていた母親のEPDS scoreは改善した (aOR0.09、95%CI 0.01-0.65)。EPDS scoreが悪化した26人の褥婦が精神医学的支援を受けた。2人は35歳以上で、どちらの乳児も奇形はなかった。

結論 高齢の母親と新生児の奇形は産後うつ病の増悪する危険因子であった。産後うつ病は、メンタルケア後にEPDSスコアが悪化した母親で発生した。産後うつ病のリスク因子が4週間時に悪化する高齢の母親と新生児の奇形のある母親は、出産直後のEPDS scoreが良好であっても、徐々に精神的ストレスが増加し、産後うつを発症する可能性があり、特別な配慮が必要である。